

2022年5月31日 全7頁

Indicators Update

2022年4月鉱工業生産

輸出の伸び悩みが波及し生産指数は低下に転じる

経済調査部 エコノミスト 岸川 和馬

[要約]

- 2022年4月の生産指数は前月比▲1.3%と3カ月ぶりに低下し、市場予想（同▲0.2%、Bloomberg 調査）を下回った。4月の対中輸出が低調であったことから、中国での新型コロナウイルス感染拡大による供給網の混乱の影響が鮮明に表れたといえる。経済産業省は基調判断を「足踏みをしている」に下方修正した。
- 先行きの生産指数は足踏みが継続するとみている。半導体不足や中国での供給網の混乱を受けた部品調達難により、当面は自動車の挽回生産が抑制されることで生産指数に下押し圧力がかかるだろう。また、円安やウクライナ危機による資源高によるコスト増も企業マインドを悪化させており、生産の下振れリスクは大きい。
- 6月7日公表予定の4月分の景気動向指数は先行CIが前月差+3.1ptの103.9、一致CIが同▲0.1ptの97.4と予想する。予測値に基づく、一致CIによる基調判断は機械的に「改善」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2021年				2022年				4月	5月	6月
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
鉱工業生産	▲6.5	+2.1	+5.0	+0.2	▲2.4	+2.0	+0.3	▲1.3			
コンセンサス								▲0.2			
DIR予想								▲1.2			
生産予測調査 補正值(最頻値)									+4.8	+8.9	
									▲0.5		
出荷	▲7.2	+2.5	+5.4	+0.2	▲1.5	+0.0	+0.6	+0.0			
在庫	+2.7	+0.5	+1.4	+0.1	▲0.7	+2.1	▲0.4	▲2.5			
在庫率	+4.5	▲1.2	▲1.5	▲0.3	+1.4	+2.0	+0.6	▲3.2			

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】中国での感染拡大の影響などにより生産指数が低下

2022年4月の生産指数は前月比▲1.3%と3カ月ぶりに低下し、市場予想（同▲0.2%、Bloomberg調査）を下回った。4月は貿易統計における輸出数量指数が季節調整値で伸び悩んだことから¹、外需の縮小が国内生産に波及した格好だ。内訳を見ると、とりわけ対中輸出の柱である中間財や資本財（除. 輸送機械）を中心に生産指数を押し下げており、中国での新型コロナウイルス感染拡大による供給網の混乱の影響が鮮明に表れたといえる。経済産業省は基調判断を「足踏みをしている」に下方修正した。

生産指数を業種別に見ると、15業種中7業種が前月から低下、8業種が上昇した。電子部品・デバイス工業（前月比▲6.6%）では、対中輸出の主力品目であるモス型半導体集積回路（メモリ）などが減少した。生産用機械工業（同▲2.7%）では部品調達難によりショベル系掘削機械が減少したほか、半導体製造装置や繊維機械では前月に急増した反動減が見られた。このところ低調な自動車工業（同▲0.6%）は4月も全体を押し下げたが、普通乗用車は小幅な減少にとどまった。むしろ自動車の部分品にあたる駆動伝導・操縦装置部品の押し下げ幅が大きい。

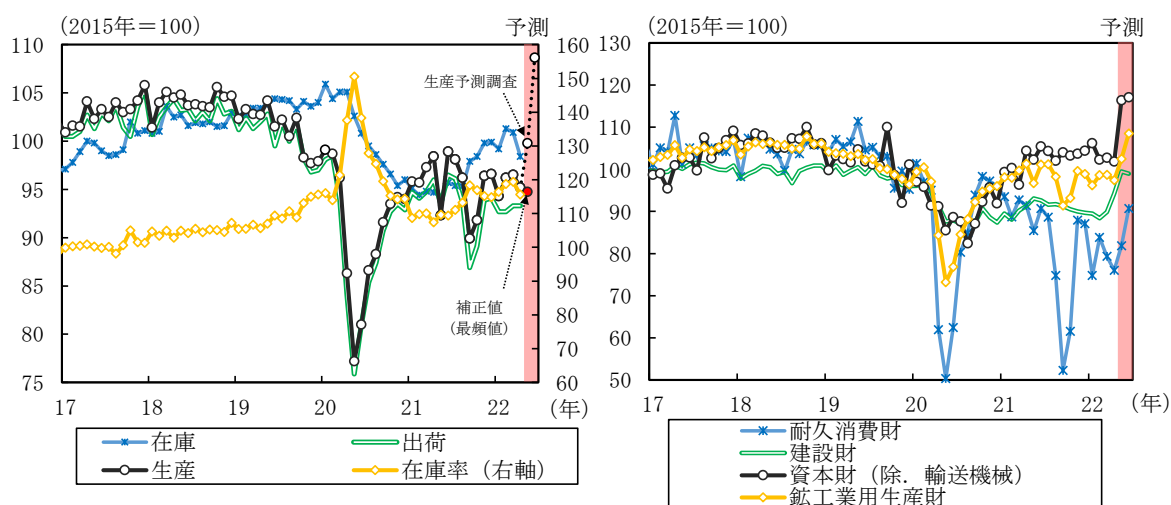
財別では、生産財（前月比▲1.1%）や耐久消費財（同▲4.2%）、資本財（除. 輸送機械）（同▲0.9%）が低下した一方、非耐久消費財（同+2.8%）や建設財（同+4.8%）は上昇した。

【出荷・在庫】出荷指数は横ばいだった一方で在庫は減少

4月の出荷指数は前月から横ばいであった。業種別では15業種中8業種が上昇した。電子部品・デバイス工業などが低下した一方、電気・情報通信機械工業などは上昇した。財別では生産財が低下し、非耐久消費財、資本財（除. 輸送機械）、建設財、耐久消費財は上昇した。

在庫指数は前月比▲2.5%と2カ月連続で、在庫率指数は同▲3.2%と4カ月ぶりに低下した。

図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）

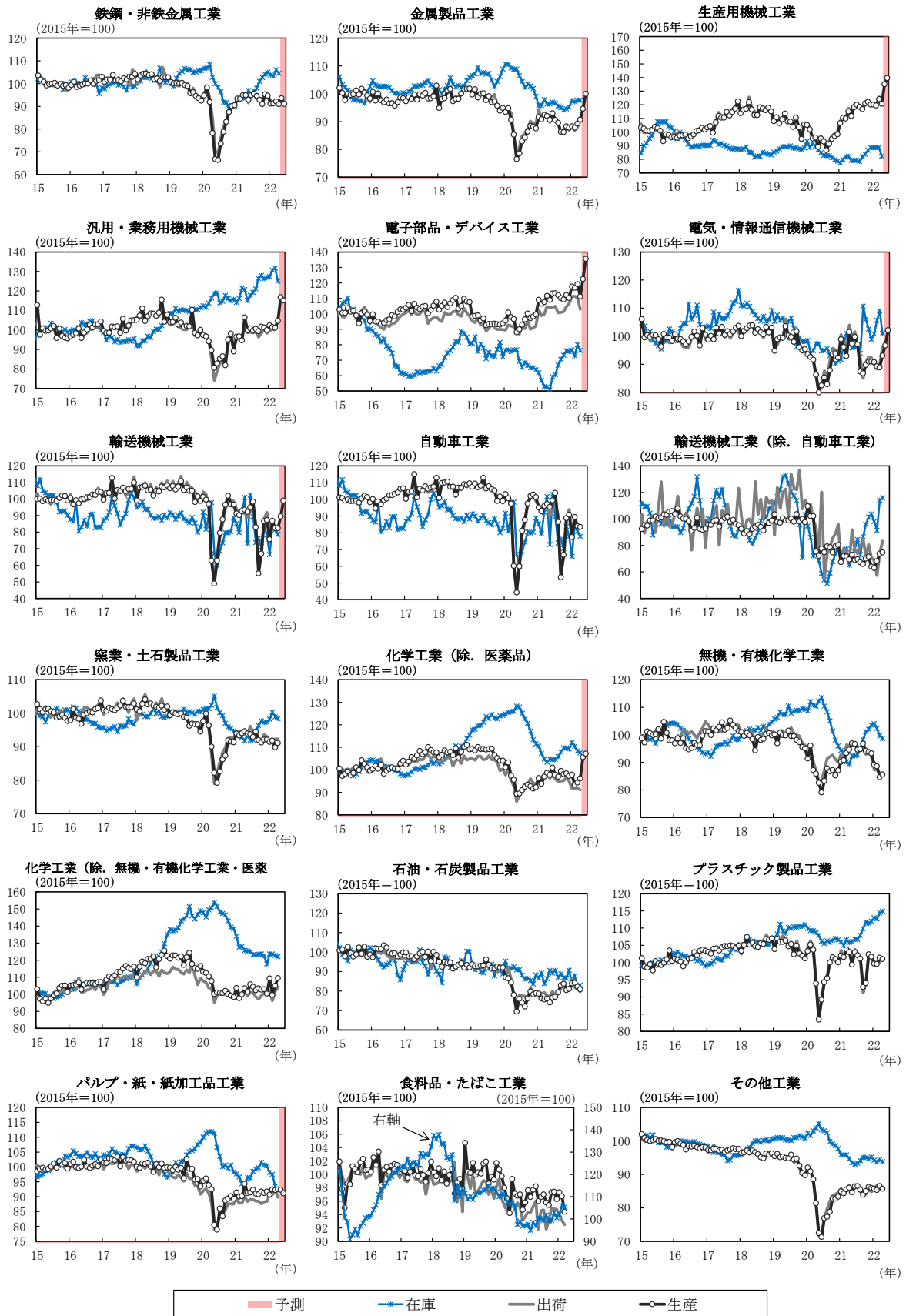


(注) 生産指数の予測値 (赤色) は、製造工業生産予測指数の補正值 (最頻値)。そのほかシャド一部分の値は、製造工業生産予測調査による。

(出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

¹ 詳細は拙稿「[2022年4月貿易統計](#)」(大和総研レポート、2022年5月19日)

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業 (除. 医薬品) の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】中国での物流の混乱などにより生産指数は足踏みが継続

先行きの生産指数は、半導体不足や中国での供給網の混乱を受けた部品調達難などによって足踏みが続くともみている。5月はこれらを理由に多くの自動車メーカーが減産を行ったほか、トヨタ自動車は6月も減産を行うと発表した。当面は自動車の挽回生産が抑制されることで生産指数に下押し圧力がかかるだろう。また、円安やウクライナ危機による資源高によるコスト増も企業マインドを悪化させており、生産の下振れリスクは大きい。

なお、中国全土で見た感染状況は改善傾向が続いている。中国交通運輸部によれば、鉄道などの貨物輸送や上海港でのコンテナ取扱量は平常時の9割程度まで回復したという²。ロックダウン（都市封鎖）の段階的な解除から物流の回復までにはタイムラグがあるとみられるものの、需要地としての機能も生産拠点としての機能も取り戻すことで、日本の生産や輸出を押し上げる要因となろう。とはいえ、今後上海市以外の地域でも散発的に感染が拡大し、供給網の混乱が長期化する可能性には注意が必要だ。

製造工業生産予測調査によると、5月は前月比+4.8%と見込まれているものの、計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同▲0.5%の見通しだ。業種別では、主力の生産用機械工業（同+11.9%）や輸送機械工業（同+8.7%）など11業種中9業種が増産の計画である。ただし、自動車工業を中心とする輸送機械工業はこのところ生産計画からの下振れが著しい。また、製造工業生産予測調査の回答期限が5月10日であったことから、27日にトヨタ自動車が発表した自動車の追加減産などが織り込まれておらず、5月の公表結果が大きく下振れする可能性には注意が必要だ。

6月は前月比+8.9%と大幅な増産が見込まれている。輸送機械工業（同+10.7%）のほか、中国向けの集積回路(IC)などの需要の回復が期待される電子部品・デバイス工業（同+10.7%）などが増産となる見込みだ。

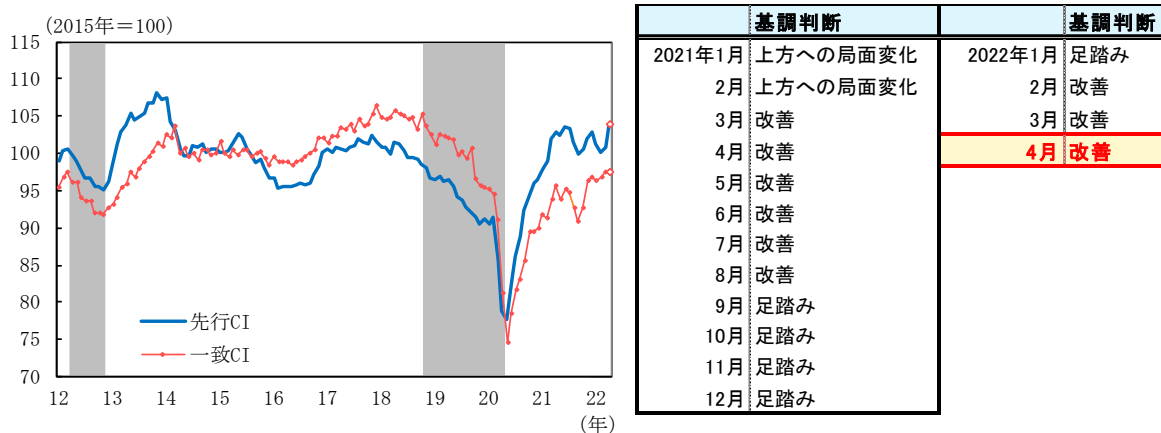
² 中国交通運輸部「[2022年5月份例行新闻发布会](#)」（2022年5月26日）

【4月景気動向指数】先行CIが大幅に改善する見込み

鉱工業指数の結果を受け、6月7日公表予定の4月分の景気動向指数は先行CIが前月差+3.1ptの103.9、一致CIが同▲0.1ptの97.4と予想する（図表4）。先行CIでは構成指標のうち、中小企業売上げ見通しDIや最終需要財在庫率指数、日経商品指数（42種総合）などが大きく改善した。また一致CIでは構成指標のうち、輸出数量指数や鉱工業用生産財出荷指数、生産指数（鉱工業）などが悪化した。これらの予測値に基づく、4月は機械的に「改善」に据え置かれる。

先行きの経済活動は、国内での感染状況の改善を背景に正常化が進むだろう。国内では回復が遅れていたサービス消費が持ち直し、2022年4-6月期には、実質GDPが感染拡大前（2019年10-12月期）の水準を回復するとみている³。その後はインバウンドの段階的な受入れ拡大や半導体不足の緩和が進むことで財・サービス輸出が堅調に推移し、景気を下支えするだろう。

図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移



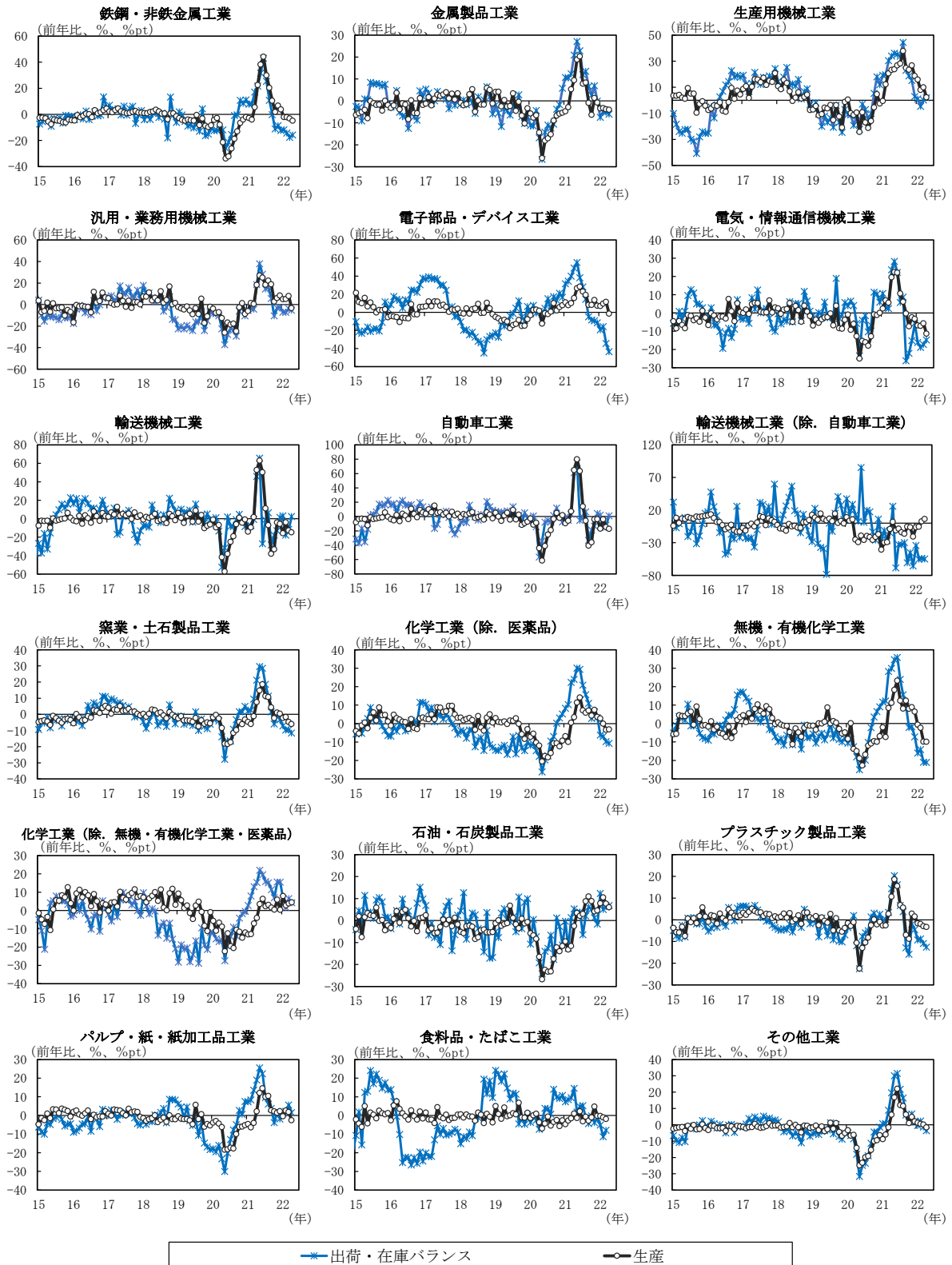
（注1）左図の直近は大和総研による予測値。右図の2022年4月の基調判断は大和総研予想。

（注2）シャドーは景気後退期（直近は暫定）。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

³ 詳細は神田慶司、小林若葉、岸川和馬「[日本経済見通し：2022年5月](#)」（大和総研レポート、2022年5月24日）を参照。

業種別 出荷・在庫バランスと生産



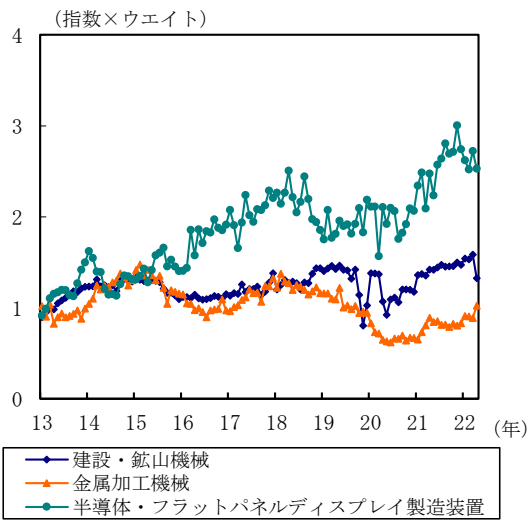
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

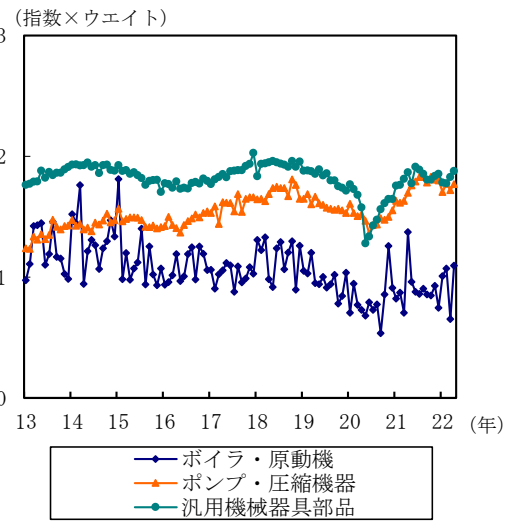
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

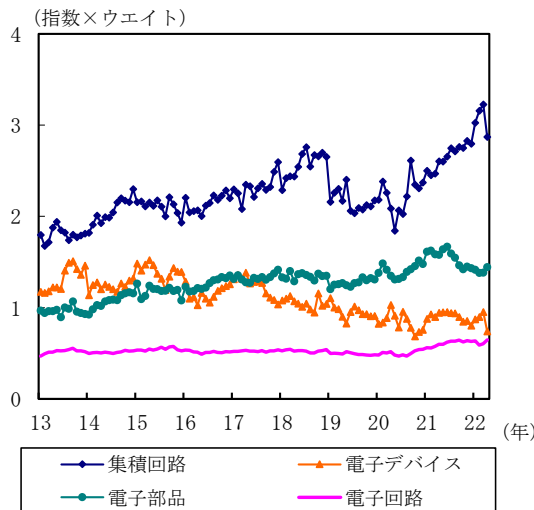
生産用機械



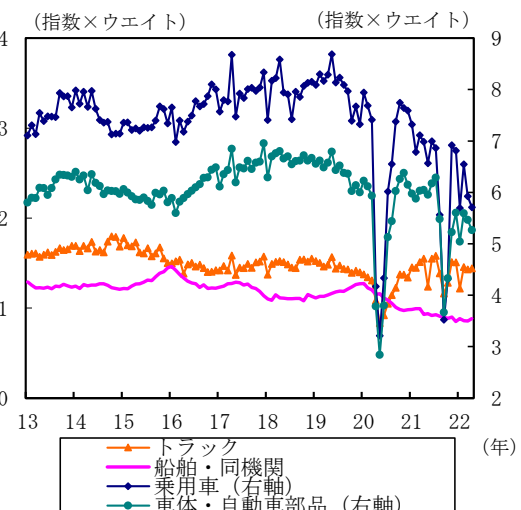
汎用・業務用機械



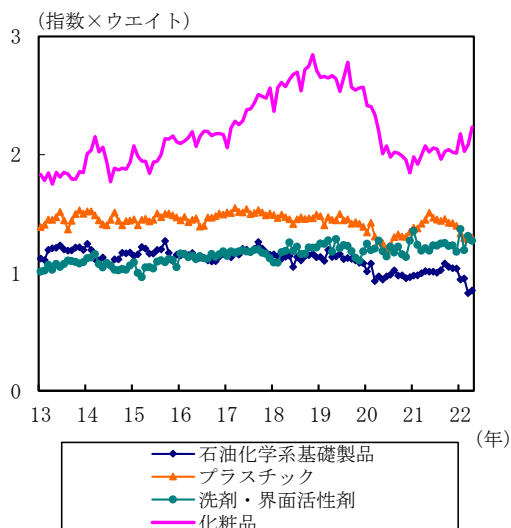
電子部品・デバイス



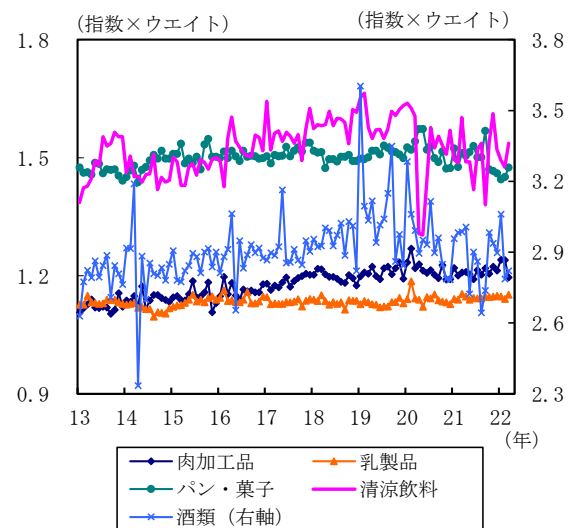
輸送機械



化学



食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成